

2012 年 世界の人形イベント

世界で開催される、観覧または参加可能な人形イベントです。それぞれ、規模・参加費・条件・入場料・システムが異なります。

出品できないものであっても、多くのイベントが一般観覧可能です。講習会を用意しているイベントもあります。

海外イベントは、予定や条件が急に変更となる場合がありますので、個人で参加される方は、主催者に事前によくご確認下さい。

タイトル	時期	都市・国	内容	出品について	URL or Email	備考
IDEX 2012	1 月 26 日～ 29 日	フロリダ (アメリカ)	アメリカで最大の人形業界の見本市。個人の作家の出品もある。	一般出品可 (2012 年分については不切)	http://www.idexshows.com/	
DABIDA 定期展	4 月 22 日	オランダ	オランダとベルギーの創作人形作家の協会の恒例展。	展示は DABIDA 会員のみ	http://www.dabida.eu/	
人形 + テディベア作家と収集家の大会	5 月 3 日～ 5 日	フィラデルフィア (アメリカ)	西海岸の人形美術館が呼びかけ、総勢約 195 名の創作人形とテディベアのプロモーションと交流を目的とした大会の第 2 回目	出品可。プログラム・講習会あり、事前登録必要。コレクターや出品などの目的によって登録料が異なる。	http://www.quinlanmuseum.com/convention/	ホテルが会場。要英語力。最終日の展示は一般公開で事前登録不要。
ケンジントン・アンティーク・創作・ファッションドールショー	2 月 12 日 5 月 20 日 9 月 2 日 11 月 18 日	ロンドン (イギリス)	イギリスの人形誌「Doll Advertiser」主催の人形展。アンティーク中心。	一般出品可	http://www.dolladvertiser.com	年 4 回開催。
第 3 回国際ドール・サロン「キエフ・フェアリーテイル」	5 月 23 日～ 27 日	キエフ (ウクライナ)	ウクライナ最大のドール・ショー。参加者からグランプリ選出 (賞金あり)。	一般出品可	http://www.kyivskakazka.org.ua/	講習会など様々なプログラムあり。
第 19 回 創作人形フェスティバル	5 月 26 日～ 27 日	エカテリンブルク (ウラル・ロシア)	物とファンタジーの人形の展示。コンテストあり。テーマは「愛読書のヒーロー」	一般出品可。海外からの参加者は出品料無料。	f10384@olympus.ru	人形劇場が会場
第 21 回 国際人形フェスティバル	5 月 13 日～ 5 月 20 日	ノイシュタッド・バイ・コーブルク (ドイツ)	人形産業縁の地をあけてのフェスティバル。玩具工業博物館では年に一度のヨーロッパの作家展開催。	玩具工業博物館での出品は招待者のみ	http://www.spielzeugmuseum-neustadt.de/	歴史のあるフェスティバルで人形美術館巡りも楽しい。開催期間中は周辺のホテルが予約がとりにくくなる。
第 6 回 ドール・タイム	6 月 (追って発表)	サンクト・ペテルブルク (ロシア)	ロシアを中心に 200 件ほどの人形やテディベア作家、ギャラリーが出店。コンテストあり。	一般出品可 出品者募集中 (講習会の開催希望の方は HAZEKI office まで)	http://www.dolltime.ru/	会場はエルミタージュ美術館の近く。講習会もあります。
UFDC 総会	7 月 24 日～ 27 日	ニューオリンズ (アメリカ)	全米最大のドールクラブ連盟の総会。日本からも入会可。	UFDC 会員のみ参加可能。	http://www.ufdc.org/	ホテルが会場。人形づくめのプログラムがいっぱい。要英語力。
ナショナル・ドール・フェスティバル	7 月	ニューオリンズ (アメリカ)	UFDC 総会の隣接する会場での、アンティーク、創作人形などの展示販売会。	一般出品可	NatDoll@aol.com	展示販売会のみ。特別なプログラムはありません。
NIADA 総会	9 月 27 日～ 30 日	スタンフォード (アメリカ)	創作人形に特化し、世界最高水準を目指す作家協会の総会。一般参加も可能。	作品講評やプログラムイベントは一般参加 OK。 (要事前申込み)	http://www.niada.org/	ホテルが会場。交流のプログラムが多いため、できれば英語ができるとう望ましい。
第 8 回 ドール・サロン	10 月 (予定)	モスクワ (ロシア)	ロシアの創作人形界を開拓してきた一般参加型のドール・ショー	一般出品可	http://moak.ru/	IADA 主催。会場はショッピングモール内の展示場。
第 3 回 国際モスクワ The Art of Doll 展	10 月 (予定)	モスクワ (ロシア)	世界で最大・最高レベルを目指す人形展。本紙記事参照	招待出品の他、一般出品枠あり。出品者募集中	http://www.dollmanege.ru/	会場は赤の広場の「マネージ中央展示場」

コヤーラ・クラブ入会条件

入会金なし 年会費：2000 円 (更新時に 2 年分一括払いの方は 3900 円となります。) 年 4 回 (3・6・9・12 月) のチーム・コヤーラのニュースレターと DM 便が届きます。

お申し込み方法

年会費 2000 円を以下の方法でご送金ください。

【郵便振替】 通信欄に「コヤーラ入会」とお書きください。

送金先 「口座番号」 00140-7-358370 「口座名」 チーム・コヤーラ

*ご入金を確認できたらチーム・コヤーラよりハガキで受領証と会員証を兼ねたお知らせをお送りし、次の号から「コヤーラ通信」をお送りします。更新時には、有効期限内の最後の号を発行するときに、更新のお知らせを同封いたします。

DM 同封希望の方 (発行月から 3 ヶ月の間に展覧会を予定されている方)

事前に枚数などお問い合わせの上お申し込みください。同封 DM は発行月の前月 20 日にチーム・コヤーラ必着でお送りください。

同封料金 コヤーラ・クラブ会員：2000 円 一般 (非会員)：3000 円

紙上展応募の方

会員の方の人形の自作品の写真を受け付けております。

9 号メ切 2012 年 2 月 10 日 (必着)

以下を下記まで、郵送かメールでお送りください。

作品写真 2~3 点 (全体・アップ・裸形) サイズ：ハガキ大。
「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。
*何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人 1 点になります。
*応募作品はウェブ上で公開されることもあります。(講評は紙面のみ掲載)
*応募書類は返却いたしません。

個人情報について

頂いた個人情報はチーム・コヤーラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤーラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤーラの趣旨に沿って DM クラブ会員にとって有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤーラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

各お申し込み・連絡先

チーム・コヤーラ
東京都東村山市久米川町 3-27-57 HAZEKI office 内
TEL 042-395-7547 (担当 ハゼキ)
FAX 042-395-7975
URL http://www.ab.auone-net.jp/~koyaala/
Email team_koyaala@yahoo.co.jp

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ (HAZEKI office)
©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。



KOYAALA 通信

Nb8
Dec. 1
2011



「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤーラがコヤーラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年 4 回発行 発行日 (予定) 3 月 1 日、6 月 1 日、9 月 1 日、12 月 1 日

東北一神さまたちとの復興展

を経て

イフンケ (小松剛也)

「東北一神さまたちとの復興展」は、9 月 13 日から 18 日まで、東京・渋谷の NHK ふれあいギャラリーで開催された。津波の後の時の流れから生まれた「月夜がうさぎ」などの祈りの人形の数々を、大船渡の神社の切紙細工と千葉惣次・真理子夫妻の手になる紙細工が見守るかにように空間を覆いつくし、かすかな風の流れて感じては揺れていた。6 日間で 1300 人あまりの方が、会場を訪れその空気に佇んでいた。ランチトークではイフンケと千葉夫妻を囲んでささやかな昼食のひとときを、フロアレクチャーでは切り紙や東北への思いを語り合い、6 日間の会期は瞬間に過ぎた。イフンケの望みの一つがここに形となって現れた。さて、イフンケはこれからもこのタイトルをテーマとして、今後も展示を続けるという。現在の思いをイフンケに綴ってもらった。

このところ、被災したこと、人形展のことも含めて、ここ数年の自分や周りの動き、ともすれば生まれてからのことを、しょっちゅう振り返ります。きっと誰でも人生を振り返ると思うことなんだろうけど、これは偶然かな？ 必然かな？ ということが沢山散りばめられていて……

というか、そういうもののリレーでここまで繋がっているんですね。

ボクは、心の底ではカルマや転生というものをとても信じ切っているわけだけど、現代になじんでしまった大脳新皮質には「どうよ？」っていうところがあったわけです。でも大脳新皮質も、だんだんとそれを認めざるを得なくなってきた、という感じがします。

少なくとも、人が自分 (エゴ) を基本にして、自分を主体にすべて自分で切り開く、という考え方は、すでにナンセンスになってしまったところでしょうか。

命というものは、あまりにか弱くて、生きていくことは理屈などでは到底なり立ちえない。簡単に死にます。

ただ、あらゆる生き物が、強烈な「生きていたい」という力を基本的に、潜在的に、大前提としてもっていて、それがとてつもなく強いパワーだといえるのです。たとえば、雑草のもつそれと、ヒトも含めたほかの生命のもつそれは同じだといえ、なんとなくわかる感じがすると思います。(人間には生きていたくない、と考えることもあります、それはよく考えてみると、＜生きていたい、でもうまくいかないから嫌だ＞ということで、どんな時にも前提は生きていたいものなのです。)

ある意味、わたしたち個体生命は、生と死の二つの質の違う大きな力の狭間に生まれたものなのかもしれませんね。そんなことを考えていると、命って「イコール生物」ということとは違うんだということもわかってくるのです。

生物って、命と呼ばれる、とてつもなく大きな活動のほんの氷山の一角なんだなー、って思えてきます。目に見えないんだけど大きな命の流れがある、で、ボクなんかの個体はきっとその何十億分の一か何十兆分の一かにもみえないほどの氷山の一角という感じです。

そして、考えてみれば、その見えないものに引かれ、ひっぱられ、導かれてここまで来たんだって思えます。

沢山の方々に支えられ人形展ができたのも、いまこうして原稿を書いていることもみんな命の流れの一つだと思えます。みんなで一緒に同じ時の中を生きているのだなあ、と感じます。

皆さんありがとうございます、です。

それは、すごいです。命はやっぱりワンダーです。

で、今はそれをもっと見える形にしたい、それにもっと関わっていきたいと思っています。

きっと、人類っていうのは見えないものが見えてきたとき、ばーんって世界が広がる生き物 (まさに生き物) なんだろうと思います。

新大陸も、空気も、重力も、電気も、宇宙や、原子も、みーんな、昔の人は知らなかった。(立場や人種や性別の違う人の大切なもの、痛み、そういうタイプの見えないもの、だって見なかった節があるし……)

で、そういうものを理解したら人類の幅は広がったんですから。

そんなわけで、原発は爆発するし、世界中でもめごとはあるしの暗い人類ですが、「行き詰ってきているんだよねえ。」という考えはベケにしようと思いました。

だって、見渡せばすぐ、こんなに大きな未開地があるわけじゃないですか、「行き詰るもなにも出発すらしてないじゃん。」と、今は感じるのです。

ИСКУССТВО КУКЛЫ

第2回国際モスクワ展 ART of THE DOLL

昨年、世界最高の人形展を目指して第1回が開催されたART OF THE DOLL展、元厩舎であった由緒ある会場の名前をとって通称「ドール・マネージ」と呼ばれるこの展覧会は、本年も10月28日から30日まで開催されました。

33の企画展示を含め、出品者数は1000人を越え、3日間の開催で3万人以上の参観客が訪れました。昨年同様、老若男女問わず、大変熱心な鑑賞風景が見られました。

チーム・コヤーラとしては昨年同様、羽関オフィスと共に、日本人作家を紹介する特別枠に「日本の創作人形のユニークネス」と題して稲田敦、くるはらきみ、レプンクル、NOE、咲耶の5人が出品、また「東北一神さまたちとの復興展」の展開としてイフンケ、杉田明十志（福島市在住）作品を展示してきました。（敬称略）

その他、日本からは亥辰舎によるブースで大竹京さんが出品、ワークショップを行いました。

ドール・マネージは大がかりで見応えのある現代美術プロジェクトから、ギャラリーがそのまま引越してきたような格調のある展示、個人の人形作家たちによる様々なファンタジーの世界やテディベア、人形素材やアクセサリまで、色とりどりの出品内容で、第1回に勝るとも劣らない内容でした。

美術館のようにたっぷりとした空間を与え、選び抜いた作家に自由な展示に挑戦させます。スイスのオルガ・ロエルのパワーアップした作品、ロシアのフェルト作家イリナ・アンドレーバの孤独な子供の心象風景を描いたインスタレーション、神話の世界を思わせるナタリア・ボベディナの幻想的なディスプレイ等々、それぞれの世界観の豊かさ、深さに感じ入ります。人形が手芸、美術、工芸の境界を易々と行ったり来たりす

る光景が眼前に広がっています。

そういう贅沢な内容から、第1回は運営が困難だったのではないかと一部で危惧されていましたが、今回はそんな不安を吹き飛ばすほどの主催者の意気込みでした。

この実行委員会はロシアの創作人形界の屋台骨ともいべき人々たちによって構成されています。この展覧会ではその人達が、人形界における貢献者を選定し「パンドラ賞」を授与するのですが、本年は筆者がその賞を賜る名誉に与りました。

今回は出品された方々もそれぞれにコレクターやギャラリーから引き合いを受け、さらにチーム・コヤーラの展示に対してモスクワ州立ギャラリーより、今後の展示に関わらせて頂けるお話がありました。モスクワではほとんど観光ができませんでしたが、個人のお宅に食事に招かれるなど、得難い体験もしました。その後移動したサンクトペテルブルグで、1日だけです観光を楽しみ、モスクワとはまったく別の顔をしたロシアを見てきました。行って帰って10日間の日程でしたが、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

この州立ギャラリーでは、12月のグループ展で稲田敦さんが出品、3月の人形展で今回出品の皆様が出品されることになります。

ベリャエボ・ギャラリー <http://www.gallery-belyaev.ru/>
チーム・コヤーラでは、6月と10月のロシアの人形イベントへの出品・見学ツアーをご提案させて頂く予定です。ご関心のある方、またはその他の人形に関する海外でのイベントについてお知りになりたい方は、チーム・コヤーラの羽関までお問い合わせください。（羽関チエコ記）

*会場写真は、チーム・コヤーラのウェブサイトでご紹介する予定です。

今回チーム・コヤーラが推薦する「日本の創作人形のユニークネス」に出品された5人の作家のうち、稲田敦さんとくるはらきみさんに、今回の展示のご感想をお聞きました。

質問 1：今までの海外の展示経験 2：海外への渡航経験 3：日本とロシアお客様の反応の違い 4：出品して良かったこと 5：反対にがっかりしたこと 6：本展に対する印象 7：全体の感想 8：その他

ロシア語で特別に制作した展示カタログ 左「日本の現代創作人形のユニークネス」 右「東北一神様連との復興」



稲田敦さん

- 1 2回（ドイツ、ロシア）
- 2 ロシア1回（今回）

3 ロシアのお客さんはとにかく人形やテディベアが大好きなんだなと思いました。

可愛い物や不思議な物、ありとあらゆる人

形を、子供から大人までカメラを片手に熱心に鑑賞しながらシャッターをきるの、日本の展示会では見られない光景でした。写真を撮られる、イコール人気ありといった感じです。

4 多くの人形好きのお客さんやロシアの人形作家の方に、自分の作品を鑑賞していただいて、また作品のことで話が出来たこと。沢山のクオリティの高い人形作品を生で見ることができたこと。

5、もっとロシア語を話せたらロシアの作家達と楽しく友達になれたのになと思ったこと。自分で持って行ける作品は限りがあるので、展示のボリュームでは地元の作家達に分があること。

6、会場の広さ、出展している作家のクオリティの高さに世界は広い、人形も色々な表現方法があって、これをいっぺんに鑑賞出来る展示はすごいなと思いました。

7 ロシアは初めてで、毎日寒空で暗い所かなあと考えていたら、今回出会った人達は暖かく自宅に食事やお茶に招いて頂いたり、美味しいロシア料理店で一緒にウォッカを飲んだり、国は違っても優しい心をもった人達と出会う喜びを教えて頂いたことが一番の収穫でした。また市内のギャラリーからの嬉しいオファーがあり、これからも人形展を通じて一人でも多くのロシアの方と出会えたらと思いました。

8 今回ロシアという初めての地で、日本の人形作家の一人として一緒に旅行出来たことを感謝しています、いつも段取りと英語で道を開きロシアの人形界にも多くの理解者をもつ羽関さん、初めてコヤーラスタッフとして頑張っておられた上に人形も大変人気だった咲耶さん、ロシア通で不思議で可愛い作品のNoeさん、ミステリアスな表情で魅力的な人形を作られるくるはらさん、ロシアの子供に似ているなと思った子供や動物の愛らしい人形のレプンクルさん、通訳のナジャさん大変助かりました。ありがとう！

皆さんとロシアをご一緒出来た事が僕の宝物です。スパシーバ（ありがとう）ロシア！スパシーバ人形！

写真左「日本の創作人形のユニークネス」と「東北一神さまたちとの復興展」の展示風景
写真中 モスクワ川とクレムリンの夜景を背景に
写真右：会場ではくらはさんのファンになったテディベア作家が早速、ブログで熱く紹介 <http://vlaoart.blogspot.com/>



くるはらきみさん

- 1 モスクワ（ロシア）、ドバイ（UAE）
- 2 ロシア2回

3 観るだけではなくて、高性能のカメラで写真を撮る人が沢山いました。

4 とにかく沢山のの人に人形を見てもらい、気に入って買ってくれた方がいたこと。持って行ったポストカードは完売しました。モスクワの人形好きに、少しだけおぼえてもらえたような気がします。

5 展示している人形の値段をしきりに聞かれるのだけど、思ったより高価なのか諦める人が多いようでした。

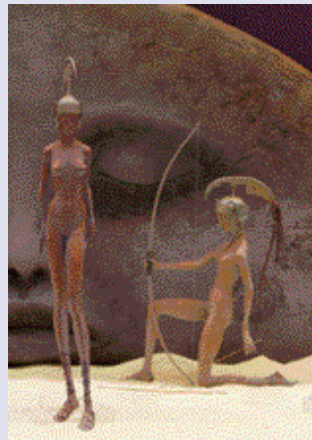
6 会場には、老若男女様々な人が訪れて、ロシアの人は人形に関心があるのだなと思いました。朝10時から夜9時までの開場でしたが、ずっと来場者が訪れ、入場すると数時間滞在して、ゆっくり鑑賞している人が多かったようです。主催者も大きく宣伝をしたり有名な現代美術家を招致したりして、人形の社会的ステイタスを上げようとしている意欲を感じました。高級美術品と言えるような人形から民族人形、フィギュア系、ぬいぐるみ、絵画、材料まで様々なブースが出展していて見応えがありました。

7 作家同士で旅をするのは、とても楽しかったです。モスクワは、仕事中心で忙しかったのですが、人形を展示して次の展開に繋げたいというのがこの旅の主な目的だったので、満足でした。モスクワにはアニーさんという非常に協力的なコヤーラのスタッフもいて、現地の事情に詳しくとてもスムーズに事が進みました。なかなか出来ない経験として、ロシアの地下鉄、バス、タクシーに乗りました。更に地元の人しか行かないであろうカフェで食事をして、エキサイティングでした。

観光で立ち寄ったサンクトペテルブルクは、夢のようにきれいな街並みで、感動でした。今回見物出来たのは1日だけでしたので、いつかまたゆっくり訪れたいです。

8 ロシアでもスーパードルフィーがとても流行っているようで感心しました。

エレナさんをはじめとして展示している作家も遠く日本から参加した私達に対して親切でした。今後は反対に外国から日本に来る作家に対して、出来ることはしてあげたいと思いました。



写真左：「時代の目」イリナ・ミジナ、ディマ、ラディミール・ボモガエフの共同プロジェクト
左下：ナタリア・ボベディナ
中下：会場入口のオートマタ
写真右：（上から）：パンドラ賞授賞式「咲耶、杉田明十志、イフンケ」「大竹京」
photos by courtesy of: Elena Lisina, Doll Manage

